

35万人体制 合理化の初年度 55.10ダイヤ改悪を許すな

日刊 動労千葉

80.9.3
No. 524

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二二五八・九(会務)三三三二七二〇七

9.5局前集会に総結集せよ

八月二十九日、動労千葉は第九回支部代表者会議の確認にもとづく、五五・一〇ダイヤ改悪阻止、組織体制強化・拡大、10・21国際反戦闘争を中心とする秋季反戦闘争の大衆的高揚を獲得目標とした、闘争指令第一五号を発した。五五・一〇をめぐる情勢は、いまこそ職場からの大衆的決起がもたらめられている時である。とりわけ国鉄当局の合理化の尖兵「本部」反動分子の敵対を粉碎し、五五・一〇ダイヤ改悪阻止、乗務員運用合理化阻止の闘う体制をさらに強固に打ちかためよう。

9・5動労千葉総決起集会へ全組合員は総結集せよ。

五六・三燃料輸送要員生み出し攻撃 「客貨分離」策動を許すな!

動労千葉の五五・一〇ダイヤ改悪阻止闘争の勝利の鍵は、国鉄当局の「客貨分離」策動を粉碎し、三五万人体制合理化——五六・三ジェット燃料貨車輸送期限延長阻止と固く結合し、申十一号要求獲得に向けて原則的に闘うことである。

千葉局の五五・一〇ダイヤ改悪は旅客関係での横須賀線→五両化・スルー運転開始という業増的要素に伴う検修作業の運用合理化と貨物関係での五六・三燃料輸送要員生み出しを意図した貨物列車二〇本削減機調士三九名減を主としたものである。

国鉄当局は、九月一〇日からの横須賀線一五両化・スルー運転を部分的に開始することを前提に「客貨分離」と称して闘いを分断することを目的化した五五・一〇攻撃として策動してきている。

従って、全国的には五五・一〇の闘いの山場は九月二〇日頃と想定されるが、千葉局においては一五両化のためのタイムリミットである九月一日前後に早まることは必至な状況にある。

この闘いは、すでに東鉄南局において乗務員の線見訓練が了解され実施されている中において困難な闘いといえる。しかし、国鉄当局が、「客貨分離」策動をもって五五・一〇ダイヤ改悪阻止闘争を分断し、無力化させ、五六・三燃料輸送要員を先取的に生み出し、五六・三燃料輸送期限延長阻止闘争の外堀を埋めんとする攻撃である以上、あらゆる困難を排し強力な闘争体制をもって決起しなければならない。

9・5局前総決起集会に結集せよ

われわれが五五・一〇ダイヤ改悪阻止闘争へ決起するにあたって再度確認せねばならないことは、第一に、五五・一〇は、三五万人体制合理化の初年度の攻撃であり、これを先制的に打ち破るか否かが、勝利へむけて決定的な意味を持っている。いかえれば、今後五年間に七万五千人を合理化し、労働条件を劣悪化し、職場慣行を根底から破壊し、「国鉄赤字」を叫びたて国鉄に奉仕する労働者「労働組合づくり」、「国鉄再建」のためには労資一体となれ等とイデオロギー攻撃をもって、国鉄労働運動を解体せんとする攻撃を、その初年度において打ち破るといふ重要な闘いである。

第二に、この闘いの爆発をもって、五六・三燃料輸送期限延長阻止闘争への一大高揚をつくり出すことである。全組合員の皆さん。国労・動労中央の五五・一〇に対する屈服と動揺の中にあつて全国の職場・生産点での怒りと不満の声は拡大している。この職場・生産点の状況を正しく見すえ、五五・一〇ダイヤ改悪阻止、三五万人体制攻撃粉碎へむけた全国的なうねりを切り拓くべく、動労千葉は闘いの先陣を切ろう。

9・5局前集会へ全職場から決起せよ。

9.15三里塚現地集会へ

秋季闘争の勝利をもって、三里塚・関西・動労千葉の団結うち固め、56・3燃料輸送期限延長阻止闘争に勝利しよう!

